



今年も

ミルクキャンペーンが

はじまります！

胸に抱く赤ん坊の重みが日に日に増していくことは、母親にとっては無上の喜び……どこの世界でも当り前のこの光景が、チェルノブイリでは常に不安と背中合わせなのです。母乳も牛乳も放射能汚染にさらされているなんてなんと悲しいことでしょう。この悲しみを共有し、一人でも多くの赤ちゃんの命を救うために、今年もチェルノブイリ救援の“ミルクキャンペーン”を行ないます。

ウクライナ訪問記…………… 2～5

目 セルゲイ君に治療費を！………… 6

96ミルクキャンペーン………… 7

次 連載6 河田 昌東…………… 8

各地から～名古屋・豊橋………… 9



州立小児病院にて

《事務局》〒466 名古屋市昭和区楽園町137-1-10

チェルノブイリ救援・中部 代表：神野英樹

【郵便振替】00880-7-108610

☎FAX:052-836-1073 (月・水・金・10:30~15:30)

(問い合わせは、お名前とシールの番号を明記し、返信用切手を同封の上、なるべく郵便でお願いします。)

9.6 秋 ウクライナ訪問記

・・チェルノブイリの子どもたちを支援する
すべての皆さんに感謝を込めて・・ 神野 英樹



「これは、なくなってしまう薬なの」
贈られた医薬品を前にして涙ぐむ
ナロジチ病院の看護婦長さん

「はじめてここを訪れる日本人は、まるで悪魔が住み着いているかのように感じるであらう。石器時代に迷い込んでしまったのではないかという錯覚におちいるであらう。」

・・・と。

事実、ブルシロフ地区病院は、今からおよそ80年以上も前の1913年に建設され、老朽化の激しい施設であるにもかかわらず、汚染地から移住した人々の医療センターとしての役割は大きく、「病人は増えているが、診察する設備がない。治療する薬がない。お医者さんや看護婦さんが足りない。」等、実にたくさんの困難を抱えている事がわかりました。

しかし、私達が、いろいろな地域を視察したかぎり、キリチャンスキーさんのファックスは、極めて控え目な表現だった事に気付きました。たとえば、私達が、ジトミル滞在中に宿泊した「ジトミルホテル」でさえ、停電したり、お湯はもちろん水さえ時々出なくなり、暖房も真冬になるまでは全くない、といった状態なのです。

「悪魔は、放射能に汚染されたウクライナ全土に住み着いている。」・・・のです。

とても大きな困難を目の前にして、私達は、何度も打ちひしがれそうになりました。しかし、救援物資を届けた時の、お医者さん・看護婦さん・村人たちの実に嬉しそうな顔。お互いに抱き合っただけで涙ぐむひととき。そして、子ども達のあどけない笑顔・・・。

いつのまにか、「必ず、もう一度、ここを訪れよう。」と、心に誓っているのです。ウクライナには、やがて極寒の冬が訪れます。私達が、チェルノブイリの子どもたちにしてあげられる事は、数えきれないほどたくさんあるような気がします。

『とどけウクライナ』を手にした時から、チェルノブイリ救援は、私の生涯の仕事になるだろうと感じていた。ブルシロフでは村のお年寄り達も出迎えてくださり、おじいさんが「これからも救援物資をお願いします。」と、原稿を読むと、おばあさん達が「目の前にこんなに沢山貰っているのに、そんなあつかましい事を言うもんじゃない。今のは通訳しないでくれ。」というほほえましい情景もありました。ナロジチの小児科の婦長さんが持参した薬を見て「これは、もう少ししか残ってない薬です。



嬉しい!」と涙をこぼされた時、又ジトーミル州立小児病院で、「中部からの保育器とミルクがなければ命が助からなかった子どもが沢山います。」という言葉聞いた時、又つぼみを守る会が作った「私たちは、春も夏も秋も冬もあなた達のことを想っています。」と言うウクライナ語のメッセージが入った4枚のフレンドシップキルトが、想像していた以上に喜んでもらえた時、これからも頑張ろうと心に違いました。

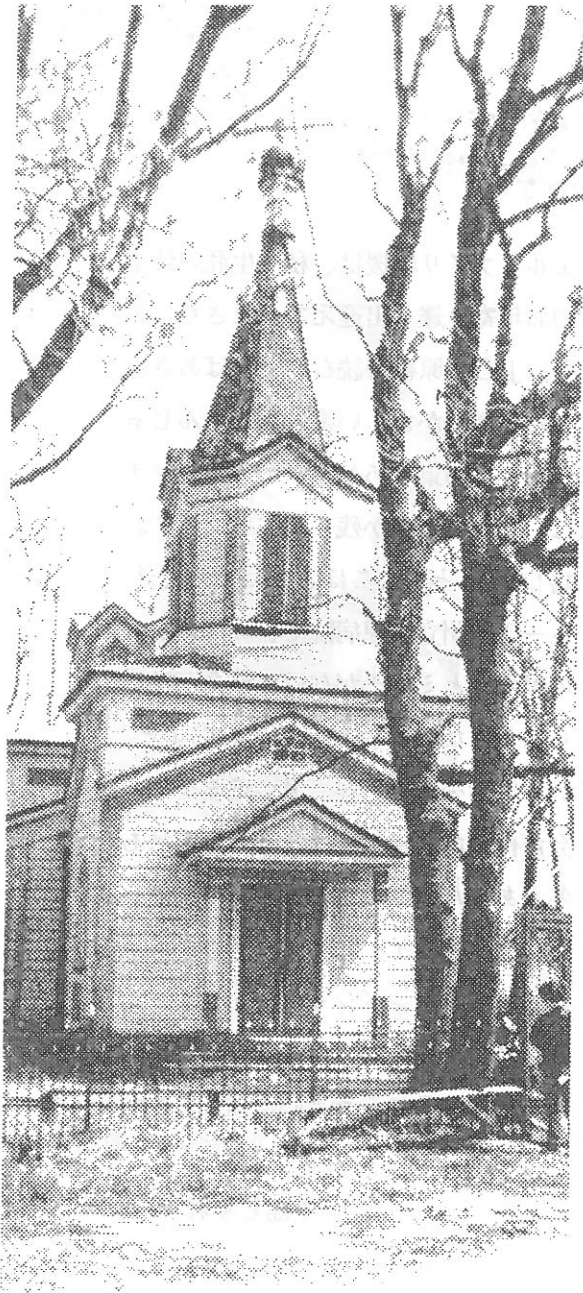
中島しぐれ

あなたも維持会員になって下さい

チェルノブイリ救援の活動を続ける為に、事務局の維持費用が必要です。
是非、事務局維持会員になって下さい。

☆維持会員会費 10,000 / 年 (または、1,000円/月)

(※通信欄に “維持会員費” と記入して、救援・中部の口座にご送金を。)



ナロジチの廃村の教会

おかげ様で又 ウクライナに行ってまいりました。スタディ・ツアーから五カ月、懐かしい人々と日々再開し、感激新たに喜び会いました。メンバーの二人（原氏・中島さん）とは閑空で初顔合わせ。気さくで話しやすく、じきに長年の知り合いのようになりました。そして神野氏の絶えない気配り笑顔は、寝不足も、疲れをも吹き飛ばして下さるのです。

キエフの竹内氏は少々夏やせで、ますますスマートでいらっしゃいましたが、『夏やせるたちなんです。ボクはいつでも元気です』と。安心しました。

ウクライナは、『黄金の秋』には二週間ほど早いようですが、そうそうと秋深まり急激に冷え込み、人々は私たちの真冬に近い身仕度でした。コート、ジャンパー、毛糸の帽子、ブーツなど。それは彼らが私の薄着（私は寒さに強いのです）を心配する以上に、彼らの体が（抵抗力低下、免疫低下などで）より以上に寒さがこたえているのではないかと心配になりました。

《嬉しかったこと》

- ・メンバーの二人と初めて会えて親しくなれた。
- ・多くの方々との再会。総出のお出迎え。
- ・医薬品に涙を流して喜んで下さった。

《悲しかったこと》

- ・スティ先のおじいさまが夏になくなられていた。
- ・ブルシロフの医療機器は古くて使い物にならないように思えた。
- ・自費参加—運営委員ではない—正式な訪問団員ではない？

支援金と私の旅費の二本建て貯金を、又始める私です。

長野県 久美子

ナロジチ病院の幼い命のために

原 富男

ある日、僕の家でチェル救事務所からファクスが入った。驚くべきことに「ナロジチ病院では、水もお湯もでない」というのだ。このファクスをみた瞬間「こいつは俺の出番だ」と直感し、仕事で使う水道工事用の工具をみがきながら今回のウクライナ行きに参加する決心をしていた。

ウクライナに入り4日目の9月20日、待望のナロジチ病院を訪れた。寒さと長時間車に揺られたことで、いきなりトイレに駆け込んだが、いざ出ようとして流す水がない（正確にはあったと言うべきだが、水はバケツに汲み置きされていた）。蛇口をひねっても手を洗う水が出ない。キョロキョロ見渡して、そばに置いてあるヤカンの水を使うのだということを理解する。

心の中で「オイッ！水道ぐらい直しとけよ」とつぶやき、ハタと気がつく。「これって、俺の仕事だったんだ」

トイレ、処置室、分娩室、調理室、配膳室、どこに行っても水がでない。特に分娩室の手洗いの水と風呂のお湯が出ないことには愕然とする。たいていの蛇口のそば



には鍋が置いてある。もちろんこれは、スープやじゃがいもの煮物を作る鍋ではない。

ここナロジチでは、移住を決意しても、移住先には家の土台だけしか出来ていなかったり、仕事がまったくくない、ひどい差別を受けるなど、また戻ってきてしまう例が後を絶たない。「今後順調に移住が進めば、10年で完了する予定だ」というが、これを信ずる人は誰一人いない。

産婦人科病棟で、生まれたばかりの赤ちゃんを二人見た。「いいなあ」と思った。「この幼い命のためにも、俺の仕事は必ずやり遂げよう」と誓った。「みんなも手伝ってくれないか!」

1996.9.17
日

原発事故後遺症の少年救おう

旧ソ連で起きたチェルノブイリ原発事故（一九八六年）の被災地に医薬品を贈るなどの活動を続けている市民グループ「チェルノブイリ救援・岐阜」が、後遺症に苦しむ少年（ミ）の治療費のため、カンパを呼び掛けている。

チェルノブイリ救援・岐阜

治療費カンパ呼び掛け

この少年は、ウクライナのキエフ市に住むセルゲイ・シェフチェンコ君。現地では今でも、がんなどの後遺症に苦しむ人が多いが、セルゲイ君は昨年、こう丸腫性腫瘍（しゅよう）と診断された。しかし、現地では薬品が不足して高価なため、手術に必要な薬を手に入れることができなかった。

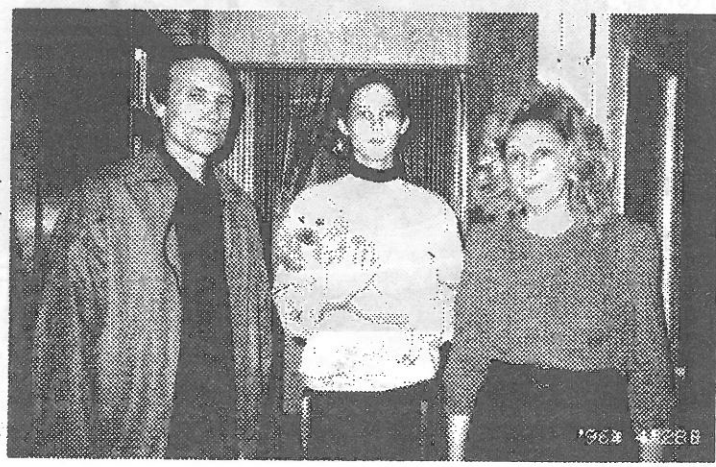
この少年は、ウクライナのキエフ市に住むセルゲイ・シェフチェンコ君。現地では今でも、がんなどの後遺症に苦しむ人が多いが、セルゲイ君は昨年、こう丸腫性腫瘍（しゅよう）と診断された。しかし、現地では薬品が不足して高価なため、手術に必要な薬を手に入れることができなかった。

この少年は、ウクライナのキエフ市に住むセルゲイ・シェフチェンコ君。現地では今でも、がんなどの後遺症に苦しむ人が多いが、セルゲイ君は昨年、こう丸腫性腫瘍（しゅよう）と診断された。しかし、現地では薬品が不足して高価なため、手術に必要な薬を手に入れることができなかった。

このため、父親の日本語教師ユーリさん（ミ）の知人で「チェルノブイリ救援・岐阜」と一緒に支援活動を続けている。ユーリさんは、セルゲイ君の母の仕事を（月額五十

ドルは、国家予算の赤字から、二カ月前になくなってしまった。会員らはユーリさんからの手紙で病状を知り、急ぎよ支援活動を再開した。

会員の新田幸子さん（ミ）は「完治するまで、できれば継続的な支援体制を整えたい。金額がわずかでも、多くの人が集まれば治療費は賄える」と、定期的な支援を呼び掛けている。一回だけのカンパも歓迎する。



セルゲイ君と
ご両親のユーリさんとレーナさん

上記の呼びかけに対して、今までに10人の方から31,000円のカンパを頂きました。これで2カ月治療することができます。ありがとうございました。

救援・岐阜では、セルゲイ君が元気になるまで継続して支援して行きたいと思っています。お一人月額1,000円ずつ、15人の方が定期的にカンパして頂けると月150\$の治療費が賄えます。もちろん1回だけのカンパも大歓迎です。みなさんのご支援をお願いします。

お問い合わせはチェルノブイリ救援・岐阜 TEL・FAX058(272)2348新田幸子まで。

カンパは郵便振り込みで

口座番号00850-5-6531「チェルノブイリ救援・岐阜」

通信欄に「セルゲイ君支援金」とお書き下さい。

とどけウクライナへ

96年 ミルクキャンペーン

— チェルノブイリ 事故11年目、更なる支援を —

期間 : 1996. 10. 1 ~ 12. 31

昨年まで救援・浜松の担当で、ミルクキャンペーンが開催され、現地に粉ミルクを送ってきました。今年も現地報告にもとずき、キャンペーンをすることになりました。

ウクライナ共和国は、独立後経済的に低迷というより困窮を極めており、「国家はチェルノブイリを忘れようとしている」とは、ジト-ミル保健省のパラモノフ氏の言葉。しかし、現実には成人も子どもも発病率は高まっているのです。医薬品や粉ミルクなどの継続支援の必要を痛切に感じます。

みなさんの寄付により贈られた医療機器や粉ミルクは、ジト-ミルの赤ちゃんには無くてはならないものとなっています。州立小児病院の院長マルチェンコ氏は、「中部から贈られた保育器と粉ミルクのおかげで、たくさんの赤ちゃんの命が助かっています。」と、支援して下さるみなさまへの感謝を述べられました。また粉ミルクは、使用量と残量をきちんと確認することが出来ました。

訪問を重ねて行く中で、フェニルケトン尿症(タンパク質を摂ると脳がダメージを受けIQが下がって行く病気で欧州での発病率は日本の6倍と言われている)の子ども用のミルクも皆無に等しく、そうした子どもを育てている母親の苦悩は計り知れないものがあります。今回は0歳から6ヵ月児用の粉ミルクの他にフェニルケトン尿症用の粉ミルクも贈る事が出来たらと願ってます。皆様の暖かいご支援をよろしくお願い致します。しばらく寄付をお休みされている方も御参加下さると嬉しいです。

《振り込み先》 チェルノブイリ救援・中部

口座番号 ⇒ 00880 - 7 - 108610

1口 2000円

(半口 1000円でもかまいません)

《問い合わせ : キャンペーン事務局》

◎ チェルノブイリ救援・一宮つぼみを守る会

住所 .. 〒491 一宮市伊勢町宮後字西茶原62-5

代表 .. 中島 しぐれ

TEL. FAX 0586-46-0263

◎ チェルノブイリ救援・中部

TEL. FAX 052-836-1073

※お知らせ → 救援・一宮では ミルクキャンペーンのバザーを行います。

どしどし参加してね。 待っています!

期日、会場 = 12月1日(日) 一宮市スポーツ文化センター

チェルノブイリの汚染地域には未だに多くの人々が住み続けている。ウクライナでは1Km²当たり15キュリー以上のナロジチ、オブルチなど強制移住対象地域になを3000世帯が住んでいる。自発的移住対象地域(希望者は移住)の5~15キュリーの汚染地域には84万人の人々が生活している。これらの人々の間には、良く知られているように甲状腺がんや免疫力低下による様々な病気が増えている。しかし、もっと恐ろしいことが人々の未来を脅かしはじめていることが明らかになりつつある。世界的な権威のある英国の科学雑誌「ネイチャー」の今年4月25日号に載った論文

に、私は来るべきものが来たと思った。

ロシア科学アカデミー、英国レスター大学遺伝学部、ベラルーシ放射線医学研究所の研究者らの共同研究のその論文では、ベラルーシの汚染地域モギリョフ地方の子どもたちの遺伝子に突然変異が高い頻度で起こっており、その度合いはセシウム137の土壤汚染と相関がある、という。調査対象地域の汚染レベルは1Km²当たり1~15キュリーで、6.8キュリーが最も多かった。突然変異の発生率は非汚染の対象地域と比べればその差は歴然としている。上に述べたように、これよりはるかに汚染のひどい地域にたくさんの人々が生活しており、こうした結果は汚染地域人々の未来に暗い陰を投げかけるものである。被害は病氣にとどまらず人類の存続にまで関わる問題なのである。

チェルノブイリ原発近く

「ロンドン25日高島屋」
 謝「チェルノブイリ原発の近くで生まれた子供は遺伝子に突然変異を起している確率が高い」との研究結果が二十四日、ロンドンで発表された。英科学誌「ネイチャー」最新号に掲載される。

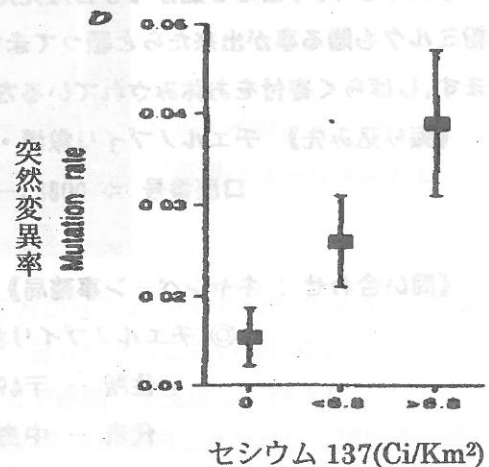
子供の遺伝子に多い突然変異

放射線が原因
 初めて確認

研究をまとめたのは、英こととしている。国レスター大学の遺伝子学 四原雅之教授が最大の影響を受けたベラルーシの汚染地域に事故後も住んでいる七十九家族を対象に、両親と、一九九四年二月から九月までの間に生まれた子供との血液を採取し、遺伝子

を調べた。この変化は、遺伝子情報として組み込まれ、次世代に引き継がれていく、と同様に起こる。

一方、四原教授はほとんど関係ない英国の家族百五組を調べて、四原の調査し、両グループを比較した。その結果、ベラルーシの子供には、英国の約二倍の遺伝子突然変異が認められた。



Human minisatellite mutation rate after the Chernobyl accident (Nature : 1996年4月25日号)

チェルノブイリ報告会

※ 時 : 10月19日(土) 午後2時~5時

※ 所 : 愛知県勤労会館2会議室

TEL 052-733-1141

地下鉄鶴舞線「つるまい」下車徒歩5分 鶴舞図書館さき

参加無料

☆チェルノブイリ10周年の今年4月26日私たちは被災者救援のために現地を訪問。汚染地域で暮らす人々や、病気になった子どもたちと会った体験談を「スタディ・ツアー」参加者が語る。又、9月16日から再度現地にチェルノブイリ救援・中部代表団が、医薬品や医療機器などたくさんの救援物資を持って訪問。ホットな報告にご期待ください。尚、スライドもあります!

主催 = チェルノブイリ救援・名古屋

1996年10月19日(土)

☆ 時間 午後5:30~ 受付開始

” 6:00~ 小木曾 茂子さんの講演

「インドネシアへの原発輸出にストップ!」スライド上映あり

” 6:30~ 各地からのメッセージ

” 7:00~ 乾杯、会食、歓談

☆ 会場 高千穂会館 豊橋市新栄町東小向75-1 TEL0532-31-0685

*会場までマイクロの送迎あり

豊橋駅新幹線口に5時集合 5時15分出発

☆ 会費 5,000円

§ 予約、問い合わせ 052-23-3928(田中 方) §

《 10月16日くらいまでに 》

「反原発ネットワーク豊橋」のミニコミ「浜岡-豊橋70km」が来月号で100号になるのを記念してパーティを企画しました。懐かしいあの顔この顔、思い出に残るあの人の人、豪華食事と楽しい会話でくつろぎのひと時をお過ごしになりませんか? 当日会場で「浜岡-豊橋70km」の1号~100号までの展示を予定しています。

竹内さんの手紙

☆96・8・28

キエフに滞在された広島の佐藤幸夫先生にお会いし、8月24日のウクライナ独立5周年記念日には街中を歩きました。佐藤先生の話では、今回訪れたウクライナ医学アカデミー脳神経外科研究所で、長期間低線量被爆した事故処理作業員に脳の萎縮が見られると言うデータがあったそうです。(中略) 事故処理作業員の社会保障について規定している法律については、以前チェルノブイリ省でもらった1991年4月の原本がありますが、その後改定を重ねており、8月25日コヴァレフスカヤ氏宅を訪ね聞いたところでは、生き残った部分はわずかとのこと。またチェルノブイリ省はごく最近廃止されたそうです。スイスで出たばかりのドキュメンタリー「制御された恐怖—チェルノブイリ後10年のウクライナの暮らし」を貸してもらいました。

24日の独立5周年記念日は、国としてはいろいろ行事を催し、精一杯少ない予算で祝っていたようですが、私の知人はロシア系ばかりで一様に冷たい反応、コヴァレフスカヤ氏には「まさかあんたもお祝いたんじゃないでしょうね」といわれました。

☆96・9・6

……前回書いたスイスのチェルノブイリ本にあるキエフ汚染地図を送ります。何年のものか書いてなく問題ですが、冒頭にあるウクライナ最高会議チェルノブイリ問題主任顧問ウサテンコ氏の証言によれば、毎年ウクライナ全土で放射能値の測定があるそうですが、これらデータの多くはワイロにより改ざんされているに違いない。なぜなら、「汚染地帯」に住むことで保障を受けたがっている住民もあるし、逆に汚染されていないとなれば、農産物をもっと売れると考える住民もいるということです。

また他の証言では、チェルノブイリ周辺半径30キロゾーンで働く人は約15000人、原発では6000人、除染作業員2000人、プリピャチ市の行政(管理?)に5000人が働いているそうで、ゾーンなので仕事の給料が高いため、なんでもいいから仕事をでっちあげ働いている人間が多いのだとか。そしてゾーン内からこっそり各種物資を持ち出し売りさばくケースもあるそうです。

☆96・10・4

……当時の新聞では、チェルノブイリ4号炉「石棺」内での「中性子流束強度(直訳)」がところにより4~5倍、更には10倍に上昇した(9月12, 16, 19日)と伝えられ、すわ爆発、また各国大使館では引き上げ準備が始まった、等のデマが一部であったそうですが、日本ではいかが報道されておりますでしょうか。

(キエフより・竹内高明)

《事務局だより》

文化祭のシーズンだということも手伝ってか、このところ小・中・高校性からの問い合わせやカンパが増えている。「ウクライナの子ども達の絵」や現地の状況を伝える「写真、パネル」の展示申し込みが多いのだが、中には、街に出て募金活動を行った、とかバザーを開いたとか、また「おにぎり募金」と称し、昼食のおかずを週一回抜きそのおかず代を募金に回すとか。具体的な行動や工夫で救援金集めを行ったと伝えてくれる。

「チェルノブイリの出来事」は、子どもらの未来に深くかかわることだ。事故から十年たち、それらの記憶が風化しそうな今、そんな彼らのたよりやカンパが何よりも心強い。

山盛 三千枝

チェルノブイリ救援・中部の収支報告

(1996年4月～9月)

収入の部		支出の部	
項目	金額 (円)	項目	金額 (円)
前期繰越 (修正)	6,552,593	救援物資関連	8,147,809
救援寄付金	3,344,200	(内訳) 医療機器代	4,711,237
(内訳) 個人 329件	1,703,547	医薬品代	2,818,460
団体 17件	1,640,653	輸送費	562,487
国際ボランティア貯金交付金	4,442,000	国際通信費	55,625
外務省援助金	2,100,000	医師研修費	912,153
運営費関連	1,286,778	ウクライナ訪問団経費	1,345,160
(内訳) 維持運営費カンパ	1,043,671	竹内氏関連	371,858
個人 118件	731,671	コヴァレフスカヤ講演会	151,852
団体 9件	312,000	翻訳代	60,706
物品売上げ	243,107	訪問団個人旅費立替	265,045
預金利子	17,495	運営費関連	2,354,311
		(内訳) 通信費	450,961
		電話代	362,884
		印刷費	205,748
		国内主張費	175,120
		会場費	37,400
		備品・消耗品	132,482
		人件費	671,150
		家賃・光熱費	263,999
		雑費	54,567
		(振込手数料など)	
		小計	13,608,894
		次期繰越	4,134,172
総額	17,743,066	総額	17,743,066

お知らせ

- ◇コバレフスカヤ 講演ビデオとテープ貸出ー 1回 1.500円(送料別)
 - ◆救援・中部のTシャツー 1枚1.500円。ステッカーー 1枚 200円。好評です。
 - ◇救援・中部オリジナルテレホンカードー 1枚 1.000円/50度数
 - ◆『絵はがき集』 1セット5枚 300円 (子どもたちからとどいた手紙や絵)
 - ◇『たった一回の原発事故で』ー 1冊 515円 + 送料 51円 (救援・中部編 地湧社)
 - ◆『とどけウクライナへ～ 私たちの救援日記』ー1.648円 (坂東弘美著 八月書館)
 - ◇ネチポレンコさんと小児科医・ライサさんの講演録1部 350円(専門家の解説付)
- 救援・中部までお申し込み下さい!



ボレーシェの編集体制が変わりました。前号までは救援・岐阜という地域が担当していましたが、この35号から各地から編集委員が集い発行することになりました。個人参加の編集委員会という訳です。

今まで以上に、会員のみなさまに開かれたボレーシェを目指していきたいと思っていますのでご意見、ご感想をぜひお寄せ下さい。投稿(詩、イラスト、マンガ等)も大歓迎です。

編集委員	市川 寛 (豊橋)
	小笠原 まや (岐阜)
	神谷 まさ子 (岐阜)
	神野 英樹 (名古屋)
	神野 美知江 (名古屋)
	戸村 京子 (名古屋)
	新田 幸子 (岐阜)

